

# 佐久市新品目導入試験事業

## 平成28年度事業報告書



佐久市営農支援センター

# 1 新品目導入試験事業の目的と

## 平成28年度の事業の経過について

当事業は、新品目の農作物や新技術について、佐久市の気候や風土に合い、かつ経済性を発揮できるかの試験をし、適合する品目等において農業者へ普及を図るために、当佐久市営農支援センターが試験業務を受託し、佐久市跡部において事業を進めています。

本年度は本事業の受託6年目となることから「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」「新たな佐久市ブランド製品の育成」について、より普及拡大を目的として取り組みました。

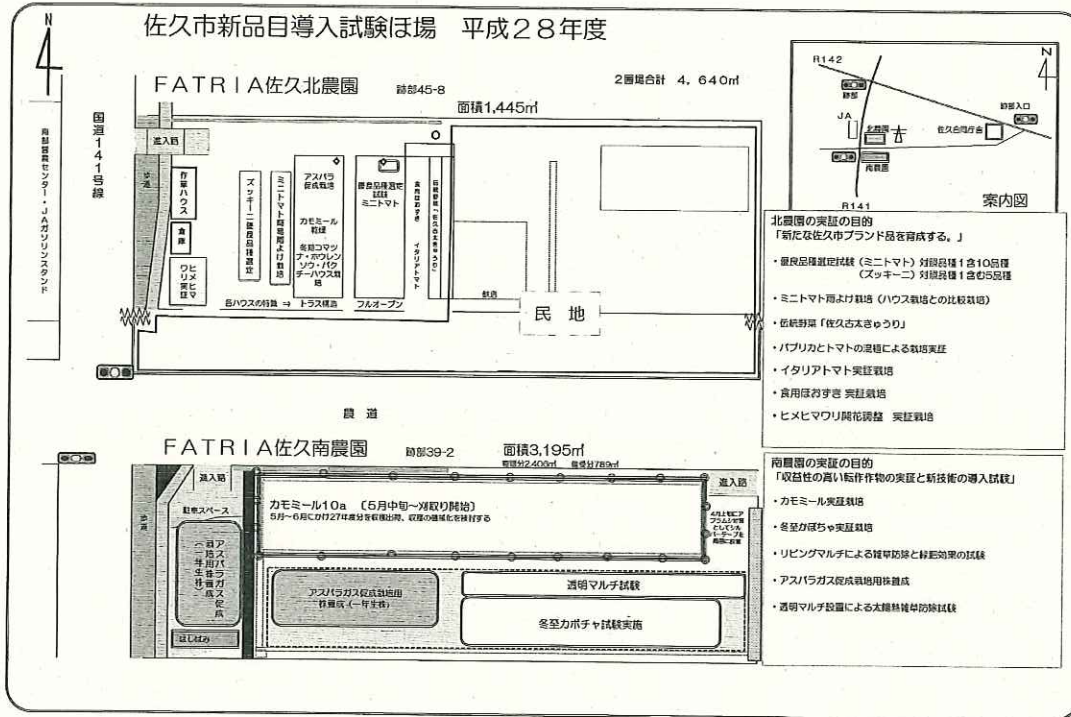
目標の1つ目である「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」については、米価の下落が米生産中心の農業経営を直撃し、収益性の高い転作作物の導入はさらに重要度を増すなかで、カモミールや冬至かぼちゃなどの作物を実証することで、付加価値が高く比較的取り組みやすい作物などについて検討を重ねてまいりました。

2つ目の目標としての「新たな佐久市ブランド品の育成」では、地域の特性に合いつつ、「佐久市らしい」農産物の実証栽培試験を行ってまいりました。

地域の主力農産物であるミニトマト・ズッキーニの優良品種の選定の実施により、産地として優位販売ができる品種などを選定しました。

また、実証展示で終わりではなく、消費者の嗜好に合う加工や販売を見据えた6次産業化への取組の一環として、観光イベント等に合わせ、試験ほ場で生産された農産物や、普及推進を図ってきた農産物を組み合わせた試食イベントを行いました。

## 2 平成28年度新品目導入試験事業の概要



## 3 平成28年度に取り組んだ試験の内容について

### I. 「収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験」

- ① 「カモミール」の栽培 10a  
27年10月上旬～28年6月中旬
- ② 「冬至かぼちゃ」栽培 5a  
7月下旬～10月下旬

### II. 「新たな佐久市ブランド品の育成」

- ③ 伝統野菜「佐久古太きゅうり」の栽培展示と栽培講習会  
6月上旬～10月下旬 0.2a
- ④ 優良品種選定試験「ズッキーニ」  
8月中旬～10月下旬 0.3a
- ⑤ 優良品種選定試験 「ミニトマト」  
3月下旬～11月上旬 0.9a
- ⑥ イタリアトマト「シシリアンルージュ」の栽培試験  
7月中旬～10月下旬 露地栽培でのミニトマト生産実証試験 0.2a
- ⑦ ミニトマトの簡易雨よけを利用した栽培  
3月下旬～10月下旬 簡易雨よけを利用した栽培試験 計0.2a
- ⑧ アスパラガスの冬期収穫のための促成栽培実証試験  
4月上旬～2月中旬 株養成 2a 促成栽培 0.05a
- ⑨ 冬期のハウス栽培実証試験（コマツナ、ホウレンソウ、パクチー）  
12月中旬～3月中旬
- ⑩ 透明マルチ設置による太陽熱雑草防除試験  
5月中旬～10月下旬

### Ⅲ. 「試験品目及び推奨品目の普及活動」

各イベントに合わせた、栽培品目や市内産農産物のPR活動について

- ・イベント名 : バルーン係留搭乗体験

場 所 : 市民交流広場

実施日、PR野菜、PR人数

- : 7月 3日 ロメインレタスとスティックカリフラワー → 50名
- : 8月 14日 イタリアトマトと長者原キャベツとズッキーニ → 140名
- : 9月 22日 イタリアトマトとリーキ → 50名

- ・イベント名 : 佐久市農業祭

実 施 日 : 11月12日

PR 野 菜 : イタリアトマト・リーキ・長者原キャベツ・にんじんのスープ  
(市内産農産物のPR)

PR 人 数 : 200名

#### 佐久市新品目導入試験事業講演会の開催

演 題 : 消費地がもとめているもの 生産地でできることについて

開 催 日 : 3月16日

参加者数 : 70名

講 師 :

東京豊島市場内「株式会社日吉」専務取締役 黒澤伸寿様

発 表 :

農業機械の農作業事故防止の防止について

新品目導入試験圃場での試験結果～透明マルチによる太陽熱除草～

## カモミール（実証展示栽培）

栽培期間 平成 27 年 10 月～平成 28 年 6 月

品 種 ジャーマンカモミール（出荷先指定）

### 施肥・栽培管理

株間 30 cm 畝間 45 cm

黒マルチ

元肥 発酵鶏糞 375 kg/10a

追肥 発酵鶏糞 40 kg/10a

### 栽培経過

平成 27 年 10 月 播種（JA 育苗センター）

11 月 定植

平成 28 年 3 月 追肥

4 月 シルバーテープ張り（アブラムシ対策）

5 月刈取り（バインダー収穫）

～6 月 乾燥・細断

6 月 出荷

### 試験結果

収穫量（乾燥重） 342 kg 前年比 114%

作業時間 定植 3 時間、作業人数 10 人

刈取り 9 時間、作業人数 10 人

乾燥 約 5 週間

細断、出荷 3 時間、作業人数 9 人

## 考察

定植作業の機械化については安定した結果を得られている。

播種～育苗に関してはJA育苗センターへ委託している。播種機によるセルトレイ播種をしているが、機械による播種は種が小さいため播種量が一定にならず人力で調整している。

バインダーによる収穫の機械化については、かなりの時間短縮につながっており、本格的な導入を検討したい。

乾燥から細断については、ハウス内での吊るし乾燥に加え、送風乾燥を実施した。

また、細断に剪定枝用のチップパーを導入した結果、乾燥・細断程度ともに良好な結果であった。

また、27年度にJA佐久浅間内発足した「カモミール研究会」の会員も徐々に増え、出荷量も増加している。



↑ 開花期



↑ 機械収穫と結束作業



↑ 細断作業

## 次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の栽培を実施するべく、栽培を開始している。

元肥の量を増加し、草丈の伸びを促進させるような技術を確立する。

4月の生長が緩やかだったことから草丈の伸びと降水量との関係性について調査する。

送風乾燥を基本とし、早期の出荷を目指す。

## 冬至かぼちゃ（実証展示栽培）

栽培期間 平成28年 7月～10月

品 種 栗五郎（カネコ種苗）

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm

白マルチ

元肥 BB-042 13.1 kg 炭苦土 10 kg

追肥 野菜1号（9月7日）

### 栽培経過

7月 1日	施肥・うね立て
21日	播種 163粒
9月 7日	追肥
9月12日	マット敷き
10月19日	収穫
	キュアリング

### 試験結果

1果どり

サイズは（M：17個、L：13個、2L：30個、3L：27個）

H28は、ポタージュにして農業祭で提供

（H27キュアリングを実施しないものを、農業祭で食味調査）

（H26はキュアリングを約2週間実施後に、農業祭で食味調査実施）

## 考察

水田転作の有力品種として「冬至かぼちゃ」の栽培を実施した。

カモミール栽培後の連続栽培が可能かという点を重点としたが、気候によってはかぼちゃの収穫後、すぐにカモミールの定植並びに定植準備ができない可能性もあり、位置を変えての栽培とした。

播種後、ネキリムシやカラスに種を掘り出される被害があり、欠株箇所は再度播種した。

9月の長雨の影響により、2L、3L サイズが多く収穫した。

若手農業者による栽培がおこなわれているが、まだまだ産地化までは至っておらず、より一層栽培技術に特化した試験が求められている。



↑ 生育初期



↑ 中期



↑ 収穫前

## 次年度における試験項目

カモミールとの輪作体系化を図るとともに、仕立てや植栽密度による作業効率の向上を目指した実証試験を実施していく。

雨の影響を受けないハウス内で試験栽培する。



## 佐久古太きゅうり（実証展示栽培）

栽培期間 平成28年 5月～10月

品 種 佐久古太きゅうり（信州の伝統野菜）

### 施肥・栽培管理

株間 100 cm 畝間 90 cm×10m

白マルチ

元肥 堆肥 浅間野菜化成 2 kg サンライム 2 kg ようりん 1 kg

病害虫防除については、慣行のきゅうり栽培どおり

### 栽培経過

5月6日 播種

21日 仮植

25日 定植

7月4日 収穫開始

10月中旬 収穫終了

### 栽培結果

苗1本あたり 約100果の収穫量

平均重・サイズともに例年並み

栽培希望者への苗の配布と栽培講習会の実施（5/24～26、35グループ、268本配布）

（仕立て方法や、管理方法についての講義）

## 考察

試験ほ場の開始年度から継続して実証展示栽培と、栽培者を増加させるための取り組みを行っている。

栽培希望者や野菜栽培講習会の参加者への講義を行うための栽培にしているが、収穫量については例年並みであり、気候や栽培の場所の変化に対しては強い。

樹勢が旺盛で、果実が小型であるため、葉の整理を怠ると取り忘れの果実が肥大化しやすい。また、収穫の後半（9月中旬以降）になると、不受精の変型果や空洞果の発生が多くなるため、断面の形状が丸みを持った四角形から三角形に変わり始めたら、良品は減少する。

試験圃場で種取りを実施。

佐久古太きゅうりの栽培グループ「佐久古太きゅうり保存会」発足となり、苗の準備や種子の保管等、生産拡大に向けての組織づくりがされた。

市内レストランが食材として検討したが、メニューへの定着まではいかなかった。



↑ 生育初期



↑ 収穫期



↑ 適期収穫

## 次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の栽培を実施する。

栽培グループが組織され、信州の伝統野菜伝承地栽培に認定されるよう取り組んでいることから、展示栽培を行い栽培者の増加、更なる普及に努めていく。

## ミニトマト（優良品種選定試験）

栽培期間 平成28年 4月～ 10月

品 種 サンチェリーピュア（対照品種）、サンチュリーピュアプラス、リトルジェムLS、トレモロ、TTM-106、TTM-117、花鳥風月、AMS-200、ピッコラルージュ、ロソアモーレ（参考）

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm×18m

白マルチ

元肥 特肥いきいき(4-6-3)20 kg ジャンプ有機(6-3-1)13 kg 炭苦土 20 kg

FTE 1.5 kg なたね粕 10 kg

### 栽培経過

3月28日 播種  
11日 施肥  
21日 仮植  
20日 うね立て・マルチ  
5月12日 定植（1品種）  
23日 定植（9品種）  
25日 葉かき開始  
6月25日 収穫開始  
7月26日 現地研修会  
8月13日 第1回優良品種調査  
9月13日 第2回優良品種調査  
11月11日 収穫終了

## 試験結果

別紙試験結果表のとおり（実用品種が2品種、再検討品種が2品種）

その他品種については、継続および検討外

## 考察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品種であるサンチェリーピュアより、耐病性に選れ、なおかつ食味や樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のサンチェリーピュアを含む9種類での試験を行った。

結果としては、別表のとおり。

昨年度に引き続き、実用品種を2品種選定された。

また、その他の品種も出荷適正ではやや難点がありつつも、食味や色合いなどで選定品種を上回るものもあり、契約栽培などでは優位販売が見込まれるものもあった。

耐病性については、試験補では病害の発生はほとんどなく、耐病性の比較はできなかった。

黄化葉巻病の発生がなく、耐病品種においての優位性も感じられなかった。



↑ 定植時の様子



↑ 圃場の様子



↑ 品種別収穫

## 次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の試験を実施するが、前述のとおり今後問題となってくることが見込まれる病害や、栽培技術に関する試験も検討していく必要がある。

## ミニトマト優良品種選定試験結果表

佐久市内で多く生産されている品種のサンチェリーピュアを対象品種として、  
耐病性並びに、収量性・商品性について調査

品種名	総合評価	H29 年度再検討	H29 年度実用
サンチェリーピュアプラス	同 等		○
トレモロ	同 等		
リトルジェムLS	同 等		○
TTM-106	同 等		
AMS-200	同 等	○	
花鳥風月	同 等		
TTM-117	同 等	○	
ピッコラルージュCF	同 等		

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

### 各品種の特記事項

#### サンチェリーピュアプラス

葉は対照品種より小さめ、病害の発生はなかった。

果実はやや小ぶりだが若干早生。

果実数は多いので収量に遜色は感じない。

光沢は対照品種と同程度にすこぶる良い。

- トレモロ 昨年は検討品種中、最も樹勢が強く後半もバテなかったが、今回の試験では、樹勢の強さを感じなかった（初期生育の影響が大きかったと思われる）。果実は大きく収量（重量ベース）は上がる。裂果は対照品種より多い。
- リトルジェムLS 草勢は強め、果実は対照品種と比べやや小さい。複果房の発生多く、収量は対照品種と同程度。光沢は対照品種と比べるとない。
- TTM-106 草勢は若干弱く、果実の揃いがあまり良くない。裂果は少ない。際だった特徴を感じなかった。
- AMS-200 草勢若干強い。複果房の発生多いが果実は若干小ぶり（ピュアプラスより小さめ）で収量は対照品種よりやや低いと考えられる。糖度は試験品種中最も高く、食味重視での選定としては優位性がある。
- 花鳥風月 草勢強く、果実も大きい。複果房の発生多く収量は多いと思われる。食味は試験品種でもっとも低く、軟果も見られた。
- TTM-117 草勢強く、複果房の発生多く、果房長も長い。軟果と裂果の発生が見られたが、天候の影響の可能性も大きいので再検討とする。
- ピッコラルーチュCF 草勢は強いが、果実は対象品種中最も小さい。食味はまずまず。果形は尖り塩梅。市場出荷にはあまり向かないと考えられる。特徴的な販売（トマトバイキング、直売所等）には向くかもしれない。

## ズッキーニ（優良品種選定試験）

栽培期間 平成28年 5月～ 10月

品 種 ゼルダネロ（対照品種）、KZA、TSX-710Z、KAQ-011、KZパワー

### 施肥・栽培管理

株間 80 cm 畝幅 180 cm 2 畝

白マルチ

元肥 BBO42 5 kg、ようりん2kg、炭苦土6 kg

2 回目は、1 回目に栽培したマルチへ播種した。

### 栽培経過

5月 1日 播種

5月 8日 施肥

5月25日 定植

6月23日 1 回目の収穫開始

8月23日 2 回目播種

8月31日 2 回目定植

10月 5日 2 回目収穫開始

10月13日 第1回優良品種調査

10月24日 第2回優良品種調査

## 試験結果

別紙試験結果表のとおり

## 考察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品目であるズッキーニについて、樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のゼルダネロを含む5種類での試験を行った。

実用品種までならなかったものの、収量性や耐病性などの評価項目別では、対照品種を上回るものもあった。

結果としては別表のとおりであり、次年度は3品種を再検討することになった。



↑ 圃場の様子



↑ 生育期の状況



↑ 品種選定試験

## 次年度における試験項目

次年度においても、市内農産物のうちでも主力品種であるため、継続して行う。

調査を実施する9月中旬が収穫の最盛期となるように、作期の調整を行う。



## ズッキーニ優良品種選定試験結果表

佐久市内で多く生産されている品種のゼルダネロを対照品種として、耐病性並びに収量性・商品性について調査

品種名	総合評価	H29 年度再検討	H29 年度実用
KZA	同 等		
TSX-710Z	同 等	○	
KAQ-011	同 等	○	
KZパワー	同 等	○	

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

### 各品種の特記事項

KZA 樹勢やや強く、ウィルスの発生ない。  
収穫初期において、果径太いが中期以降細くなる。脇芽は少ない。

TSX-710Z ウィルス等耐病性は対象品種と違いを感じない。脇芽は少ないか。  
果実は対象品種に比べ若干太め。株、果実の揃いは良くない。

KAQ-011 本産地主力のグリーンポート2号とほとんど変わらない。  
樹勢は若干強い。艶よく、果形も理想的。果色は若干薄いか。  
早春作で試験導入、低温下で従来品種より着果が安定していた。

KZパワー 樹勢が強く、ウィルス、病害が最も強いと思われる。  
早生で収量多いが果色が薄く、果実が細く、うねるように曲がる。

## イタリアトマト（実証展示栽培・加工品試食）

栽培期間 平成 28 年 5 月～ 10 月

品 種 イタリアントマト（シシリアンルージュ）

### 施肥・栽培管理

株間 70 cm 畝間 90 cm×10m 2 本 2 本仕立て

マルチ

元肥 特肥いきいき 2.5 kg、なたね粕 2.0 kg、炭苦土 3.0 kg

### 栽培経過

4 月 1 日 播種

8 日 仮植

5 月 28 日 うね立て・マルチ

5 月 29 日 支柱立て・ネット張り

6 月 6 日 定植

7 月 20 日 収穫開始

8 月 14 日 熱気球体験搭乗者へ冷製スープ、ラタトゥイユを提供

9 月 22 日 熱気球体験搭乗者へ市産野菜とイタリアトマトのスープを提供

11 月 12 日 佐久市農業祭にてリーキとトマトスープを 200 食提供

### 結果

販売価格が生産者によってバラつきがあり、単純な生産だけでは普及が難しいが、加工性が良く 6 次産業化の有望品種である。

収穫時期後半は、登熟過程でも裂果した。

## 考察

平成 25 年度より継続して実施しており、佐久市内でのイタリア野菜普及のための足掛かりとしている品目である。

生食トマトに比べ、リコピンやプロリンなどの抗酸化物質の含有量が豊富な高機能トマトである点と、生食・加熱の両方に向けた使い勝手の良いトマトである。

ミニトマトと異なりヘタの無い状態で出荷できる点や、露地で栽培できる点など、施設の必要が無いため、新規の就農者や定年帰農者などの資本が少ない方に向いている。

収穫期の終盤の秋は、果実内の水分状態と水分吸収から裂果してしまい、収穫できなくなった。

高付加価値での販売を目指すためには、パッケージングや加工等の手をかける必要があるが、加熱時の「味が濃い」「うまみが強い」などの利点を前面に出した戦略を持つ必要がある。



↑ 生育初期の様子



↑ 生育中期の様子



↑ 生育後期の様子

## 次年度における試験項目

シシリアンルージュ、ロッソアモーレの品種を栽培していきたい。

市内の飲食店等においての利用が広がっていくような戦略も検討していきたい。

## アスパラガス促成栽培（実証展示栽培）

栽培期間 平成 28 年 5 月～29 年 2 月

品 種 ウェルカム

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm×80 cm

マルチ 黒マルチを両サイドに設置

元肥 炭苦土 20 kg ダブリン 6 kg 浅間野菜化成 25 kg

### 栽培経過

平成 28 年 4 月 30 日 定植

12 月 12 日 堀りあげ

13 日 伏せ込み

12 月 28 日 加温開始

平成 29 年 1 月 16 日 収穫開始

### 結果

ウェルカムの 1 年株による促成栽培を実施した。

1 株当たりの発生本数は 3.3 本であり、出荷規格を満たすサイズは 4 割程度であることから、現状の栽培体系では費用対効果が薄い。

十分に地下部を育てつつ、収益を生み出すためには 1 年半の株養成期間を置いたほうがよさそうである。

## 考察

1年半株養成を計画していたが、苗の準備から実施することができなかった。

1年養成株を利用した促成栽培を実施したが、出荷規格を満たす出荷品の率が低いことと、収穫期間が約1か月と短いこともあり、生産量がかなり落ちた。

また、シートもかけておいたが、凍霜の被害にもあった。

1年養成株では生産量が低く、2年養成株は病気の発生に伴う収量低下のリスクを負っている。



↑ 促成栽培の様子



↑ 1月初旬の様子



↑ 1月下旬の様子

## 次年度における試験項目

南圃場において栽培中の2年養成株を春採り後、秋季に基部を刈り、トンネルでの遮光栽培によるホワイトアスパラガス栽培を行う。

## パプリカ（実証展示栽培）

栽培期間 平成 28 年 4 月～28 年 9 月

品 種 赤系（スペシャル）黄系（フェアウェイ）どちらも苗からの栽培

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 90 cm×17.5m

マルチ 白マルチ

元肥 特肥いきいき 20 kg ジャンプ有機 13 kg なたね粕 10 kg

炭苦土 20 kg 微量元素複合肥料（FTE） 1.5 kg

### 栽培経過

平成 28 年 4 月 11 日 施肥

19 日 うね立て・マルチ張り

22 日 定植（赤）（黄）

5 月 10 日 支柱立て

6 月 15 日 仕立て・誘引

7 月 8 日 収穫開始 7 月 11 日～ 追肥 液肥



↑栽培講習会での定植



↑誘引の様子



↑成熟したパプリカ

### 結果

実証展示及び野菜栽培講習会用の展示講習用栽培で、平成 24 年度から栽培を継続している。講習会参加者からの次年度継続の要望が多く、推進すべき施設作物として継続して栽培実施していく。長野県農業試験場からの技術情報にある「2本仕立て」による栽培を実施する。

# コマツナ、ホウレンソウ、パクチー（実証展示栽培）

栽培期間 平成28年12月～29年3月

品目 コマツナ、ホウレンソウ、パクチー

## 施肥・栽培管理

畝幅 60 cm×10m

元肥 堆肥 20 kg 炭苦土 0.9 kg 化成肥料（あさま1号） 1.5 kg

## 栽培経過

平成28年12月9日 施肥

15日 播種

間引き

生育状況	コマツナ	ホウレンソウ	パクチー
2月13日	草丈 20～30 cm	草丈 13～17 cm	草丈 12～19 cm
3月7日	草丈 24～35 cm	草丈 25 cm	草丈 15～25 cm
3月14日	草丈 35 cm	草丈 35 cm	草丈 24 cm
3月31日	とうが立つ	草丈 35 cm	とうが立つ



↑ 1/18 コマツナ



↑ 2/13 コマツナ



↑ 2/13 ホウレンソウ

## 結果

冬期間における野菜栽培の実証試験のため、ビニールハウス内でトンネル栽培を実施。

12月中旬に播種し、収穫適期となるまで「コマツナ：2か月」「ホウレンソウ：3か月」

「パクチー：2か月」の期間を要したが生育することができた。



## 普及推進作物PR活動について

栽培品目、推奨品目を使用した試食の提供やレシピの配布を実施した。

7月3日、8月14日、9月22日 熱気球体験搭乗イベントに合わせた、農産物PRとスープの提供



↑熱気球体験搭乗会場



↑スープとレシピの提供



↑佐久市産農産物PR

11月12日 佐久市農業祭で「佐久市産農産物スープ」の提供



↑農業祭のスープ提供

### 原材料

イタリアトマト、リーキ、長者原キャベツ、  
パプリカ、にんじんのスープ

観光イベントに合わせて市産農産を使った料理の提供により、親子や多くの方に味わっていただき、PRを行うことができた。佐久市の特産農産物や、イタリア野菜をはじめとした新品目野菜の利用や購買に積極的な年齢層の方に美味しさや、高機能性を紹介することができた。

今後これらのPR活動を継続することにより、より多くの市内外の購買者を増やせるものと考えている。

## 「野菜栽培講習会」

直売所等に出荷できる野菜農家を育成するため、栽培技術に関する講習会を実施した。

### 講習会日程

回数	実施日	内容
1	4月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講式 ・土づくり ・苗づくり</li> <li>・パプリカの定植 ・ミニトマトの栽培方法</li> </ul>
2	5月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐久古太きゅうりの栽培技術</li> <li>・パプリカの誘引</li> </ul>
3	5月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマトの定植</li> <li>(肥料、追肥、消毒、害虫等の話)</li> </ul>
4	6月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パプリカ、ミニトマト、なすの定植</li> <li>・先古太きゅうりの整枝剪定</li> </ul>
5	6月24日(金)	
6	7月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬至カボチャの播種</li> <li>・ナスの祖立て方</li> </ul>
7	7月20日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト(品種別での試食)</li> </ul>
8	8月3日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトマト、ナス、古太きゅうりの収穫方法</li> <li>・冬至カボチャの仕立て方</li> </ul>
9	8月24日(水)	
10	9月15日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パプリカ、冬至カボチャの収穫、試食</li> </ul>
11	10月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省会</li> </ul>

講習会受講者数 16名



野菜栽培講習会の様子

## 「佐久市新品目導入試験事業講演会」

佐久市産の野菜も取り扱う仲卸業者に最新の野菜の消費動向や産地、生産者にかけていると感じていることについての講演会と試験ほ場で実施した透明マルチによる太陽熱除草試験の試験結果、農業機械による農作業事故の防止についてを佐久市佐久平交流センターにおいて実施した。

実施日 29年3月16日 佐久市佐久平交流センター 参加者70名



「消費地が求めているもの 生産地でできることについて」と題した講演会には農業関係団体関係者や一般の方を含め、70名の参加者に講演会を実施し、佐久地域の農産物の特性や東京のホテルとレストラン、家庭で求められる農産物についてや、「自分たちの作った農産物がどのように使われているのか」産地・生産者に興味を持ってほしいこと、流通に関わっている人たちと連携してほしい、と講演がされました。

(アンケート結果は別紙)

# 新品目導入試験事業講演会アンケート集計(46名)

## I 今回の講演会は皆様の参考になりましたか？

1	大変参考になった	17
2	参考になった	23
3	あまり参考にならなかった	4
4	まったく参考にならなかった	0
5	その他	0
	無回答	2

## II 開催時期についてはいかがでしょうか

1	ちょうど良い	14
2	もっと早いほうが良い(12月中旬~1月中旬)	7
3	早いほうが良い(1月下旬~2月中旬)	16
4	もう少しだけ早いほうが良い(2月下旬~3月上旬)	8
5	もう少し遅いほうが良い(3月下旬)	0
	無回答	1

## III 新品目導入試験ほ場事業で取り組んだ方が良いと思うものはありますか？

1	イタリア野菜などの新しい品目(新品目の栽培特性試験)	0	
2	伝統野菜や地域独自の品目の試験(地域色豊かな作物の栽培)	8	
3	ミニトマトやスッキーニなどの一般栽培野菜についての新しい技術(新技術の普及)	12	
4	水田転作が可能な作物の探索(水田転作の推進)	13	
5	定期的な栽培講習会や、機械・技術などの実演会(その他)	15	
6	生産者への販路のあっせんや商談会などの実施(販路拡大活動)	11	
7	佐久市産農産物の販売促進(PR活動)	11	
8	その他	1	流通
	無回答	3	

## IV 今回の講演会についてはいかがでしたか？

1	満足	21
2	やや満足	10
3	ふつう	9
4	やや不満	2
5	不満	0
	無回答	4

1の理由	
黒澤さんが最高でした	
情報量が多かった	
日吉さんの話がとても良かった	
興味の有る分野だったから	
日吉の黒澤さん、やる気になりました。ありがとうございました。	
2の理由	
普段聞けない内容の話でした	
農作業事故は2~3回有り	
時間的にちょうど良かった(長さ)展開が早くてあきない	
講演は良い。発表はもっと具体性があったほうが良い。	
4の理由	
講師のマイクの使い方が下手で聞きにくかった	
マルチの特性等の説明が欲しい。もう少し時間が欲しい。	

## VI その他、ご意見

- ・大変良かった
- ・個別経営体の集落営農への推進、対策を進めて欲しい。  
又、個別の方たちの生産コスト低減策の構築推進。

実施主体 : 佐久市営農支援センター

住 所 : 佐久市中込3056

電 話 : 0267-62-3203

F A X : 0267-62-2269